

「万子」と「牛」の話っこ



表紙 素材礼讃 丹念

vol. **101** November 2023

contents 目次

- 04 YOKOGAO 拝見
- 04 野菜歳時記
- 06 おせち特集 2024
- 10 ランチ情報
- 14 中心街で Art を楽しもう
- 18 ショッピング情報
- 20 ビューティー & ヘルシー情報
- 21 タウンウォッチ
- 22 忘新年会特集
- 34 はちのへ TAKEOUT Gourmet
- 37 食育エッセイ
- 38 プレゼント & クーポン

ホームページ公開中

パソコン
<http://www.webwell.jp>
ケイタイ
<http://www.webwell.jp/mobile/>



挿絵/久慈彩華

昔々あったずもな。ある所に万子という娘つ居だつた。万子は「麻長者」と呼ばれる屋敷に、小さい時から口べらしに寄こされて子守りをしていた。でも、今では万子は長者様の屋敷の下働きとして重宝され、皆にめぐがられていた。そんなある日、長者様が「万子、出掛けてくるからな。麻の反物干しであるから入れておくんだよ」と言つて町さ出掛けした。万子は「はい」と返事して、それからやらねばならない仕事をわらわらとやつた。その後、めぐがつている牛を小屋から出して「今日は天気が良いから新しい藁を敷いてやるよ」と敷き藁をかえでやつた。それからゆつくり長者様から頼まれた麻の反物を家の中に入れておいた。さて、万子は晩飯の支度をしていたら長者様が帰ってきた。しばらくしたら「万子、ちよつと来い」と長者様に呼ばれた。万子が行つて

みると「万子、反物一つ足りないがどうした？ お前隠したのが？」と聞かれた。万子は「あれえ、だんな様、おら、あるだけの中に入れました」「入れたと云うけど、麻一反足りないんだよ、盗つたのなら早く出せ」「だんな様、おら、隠しも盗みもしていないね」「せば、俺が嘘ついでいるというのが？ 正直に今出せば、許してやるが、出さねば警察沙汰にするよ」と長者様は怒つてしまった。そして集まった家の者に、万子の寢床や何やらを捜させた。家の者は「万子どこに隠した？ 早く出せ、出せ」と責めるし、万子は「親さ行ってしゃべつたら、この、恥さらし！」と怒られるべし、警察沙汰になつたらもうとおそろしね。万子は「どうしたらいいか訊わからず、とうとう近くの沼に入つて死んでし

まった。次の日の朝ま、沼に浮かんでいる万子を見つけた村の人が「長者様、万子が死んでいる」と知らせに来た。長者様は「何も死ななくともよいものを」と怒つた。したら今度は家の者が「だんな様、大変だ。牛が反物吐きました」と、ぐしやぐしやになつた麻の反物を持つてきた。さあ、大変「万子が反物を盗んだ」と決めつけていた長者様は、青くなつてしまった。なんと反物を盗つたのは誰でもない牛が反物を盗つて食つてしまったのだ。長者様は「なんとした事だ、一人殺してしまつた」とへたへたと腰を抜かしてしまつた。ところが、その時なんと麻を食つて吐いた牛のたりのたり出てきた。皆の前で「もう」と鳴いたかと思つたら万子が死んだ隣の深い沼の方さ、ズブズブと入つてとうとう沈んで戻つてこなかつた。それは、家の人も

村の人も「あれよ、あれよ」という間の出来事だつた。万子にめぐがられていた牛が、自分が麻布を食つたばかりに万子を死なせてしまったと長者をなじりながら、涙をこぼしこぼし万子の後を追つて沼さ入つて死んでしまつたのだ。その後、長者様は万子と牛を手厚く弔いをした。でも、麻の商いもだんだんうまく行かなくなつて落ちぶれてしまつたという話だ。今でも万子沼、牛沼と呼ばれて沼はあるようだ。どつとはれ。